

田子町～三戸町



田子町

みるくの滝 1

ブナの原生林に囲まれ神々しい姿を表す神秘的滝で、高さは30m、幅は20mもあります。



滝の名前は、中岳坊という僧侶が、弥勒菩薩の出現を念じたところ、大滝がかり凶作に苦しむ下流の田をうるおしたという伝説に由来しています。幾条もの細い糸を引いて岩肌を滑り落ちるので、別名そうめん滝とも言われているほか、その形状からスヌーピーの滝とも言われています。

洞円寺 2



町指定文化財の仁王像は、明治8年、周香大和尚が、広く北海道まで基金を募り完成させたといわれています。松材を用い、朱塗りで高さ3mの1対の像は参詣人に畏怖感を与えるほどの迫力があります。



九戸亀千代斬殺の場 3

九戸戦争で戦った九戸政実の嫡子・亀千代が、対立していた南部信直の配下である佐藤軍郷に斬殺されたといわれている場所です。軍郷は菩提を弔うべく亀千代を祭神として若宮八幡宮をすぐ近くに建立したといわれています。町指定文化財(史跡)に選定されています。



旧橋本家住宅 4

当時のままの姿で現存している南部曲屋は少なく、貴重な遺構として、県重宝に指定されています。旧橋本家住宅は19世紀後半に建築されたと推定される、南部曲屋です。曲屋は、主屋から馬屋をL字状の平面に配置するのが特徴で、橋本家住宅は、曲り部分が建築当初から接合されていたと見られ、土間、馬屋などに使用している柱には、当時の技術であるチョウナ削りの跡が確認できます。昭和63年に田子町が譲り受け、平成4年度にタブコブ創遊村に移築・保存修理を実施し、公開されています。

タブコブ創遊村 5

南部地方に残っていた萱葺き屋根の民家5棟を移築した体験観光の拠点です。陶芸や手打ちそば、手



焼きせんべい、こんにやく作りなどの体験が出来ます。

姥ヶ嶽神社 6

田子の出身で八戸の大慈寺の住職をつとめた奇峯学秀は多くの仏像を刻み、現在も南部地方にかなり残されています。近世の仏像彫刻には珍しく厳しい表情の像が多く、粗い彫り口には独自の魅力があります。



【十一面観音像】

頭上に表情の異なる十一の面を載せているのでこのように呼ばれます。背面に学秀自作筆の観音様をたたえる歌が墨書されています。享保17年(1732)の制作。県重宝。

【弥勒菩薩像】

弥勒菩薩は世の中が乱れたときに出現して衆生を救済する仏とされます。背面に学秀自作の歌が墨書されていますが、風化と虫害のためかなり判読が困難となっています。享保17年の制作。県重宝。

田子館 7



明応年間(1500年頃)、南部20代信時が引退後、佐々木氏の居館を接収して隠居所兼学問所と定めてから南部家一族の居館となつたと伝えられます。信時

のあとは光康、高信、信直が館の主となり、信直が26代当主となって三戸城へ移るまでの約100年間南部氏の居館であった。信直の子でのに27代当主となった利直はこの館で出生しています。



田子神楽(八坂神社) 8

国選択無形民俗文化財、県無形民俗文化財にも指定されている、約400年前から伝わる山伏神楽です。江戸時代初期、田子の修験大法院は南部藩御用神楽を務め、正月16日盛岡城に登城して神楽祈禱を行ったのがはじまりとされています。一時衰え、その後池田文左衛門が岩手から獅子舞を移し、その弟子由蔵が伝えたのが今の田子神楽といわれています。明治以後は、八坂神社の氏子たちが伝承してきました。八坂神社の祭のおり(旧7月14日、15日)および、旧正月などに行なわれています。



釜淵観音堂 9

糠部三十三観音霊場第27番札所。釜淵観音堂には、町の文化財に指定されている観音菩薩像、閻魔王像、十王像など奇峯学秀の作品が多く残されています。奇峯学秀は釜淵一族の出身で生涯に三千数百体の仏像を制作しています。



享保7年(1722)、八戸の大慈寺を引退した後、この観音堂に籠もって三期目の千体仏を完成、奉納しました。

真清田神社 10

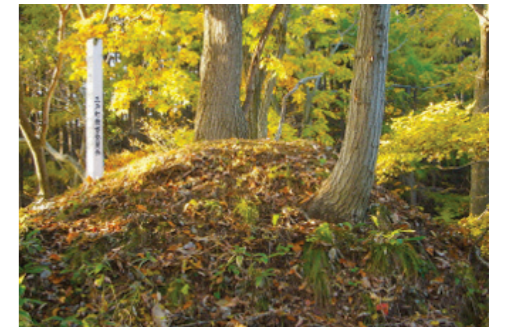
(下田子清水寺観音)

糠部三十三観音霊場第26番札所。明治2年までは十一面観音を本尊とする金龍山清水寺と呼ばれ、大同2年(807)田村麻呂の建立によるものとの伝説があります。田子城時代の南部信直・利直はこの観音への信仰が厚く、毎年奇進米二駄を奉獻していました。



はこれを哀れみ、せめて首だけでも葬りたいと、林泉寺そばの丘に首塚を立てました、4つの塚に葬られた首の数は1千といわれ、千人塚と呼ばれるようになりました。

駕籠立場の一里塚 13



駕籠立場の一里塚は幕府が各街道に一里ごとに設置した、旅の距離の目安となる塚のひとつです。奥州街道に設置されたこの一里塚は、街道を挟んで二つ一対で設置されているのが特徴です。

三戸町

斗内稻荷神社 11

稻荷神社の創建は不明ですが、本殿に所蔵される棟札には、明和4年(1767)、寛政8年(1796)、天保12年(1841)のものがあり、江戸時代半ばにはこの神社があったことがわかります。本殿は建築型厨子で、一間社流造とされて、県重宝に指定されています。田屋集落の氏神として広く信仰を集めており、大切に管理されてきた様子うかがわれます。

林泉寺(千人塚) 12



天明の大飢饉の際、この地方でも多くの餓死者が出ました、また路傍や山野にも無数の死者が放置されていました。

斗内の林泉寺の檀家頭であった栗谷川藤右衛門

泉山の登拝行事 14

三戸町の泉山地区には、「国指定重要無形民俗文化財」に指定されている「泉山の登拝行事」と言われるお祭りが古くから伝えられています。通称「泉山の七歳児初参り」や「月山参り」と呼ばれます。



泉山地区にある月山神社の大祭で、旧暦6月12日、数え年七歳の男子が白装束を着て父親と一緒に名久井岳第2峰である月山へ上り、頂上にある奥殿で健康祈願の神事をするものです。一人前の男になるための通過儀礼の一種で、青森では泉山だけに残っています。かつては泉山地区の7歳児だけでしたが、現在では町内外から参加しています。